



こだまネット

信州大学 自然環境診断マイスター

発行:こだまフォーラム

診断するということ・その2

前回に続き、「診断」について考察してみましよう。そして、そもそも私たちマイスターが診断しようとしている、自然環境問題というのはどのような体系のなかにあるのでしょうか。

まず、「診断」の流れをお医者さんの手順と比較して見てみましょう。



診断の手順は、医者の場合おおむね上段のようになります。我がマイスターの診断は、下段のようになてはめることができます。医者が「カゼ」と診断したところで、処方箋を作成し治療(点滴、薬を出す、入院など)しなければ、患者はなおりません。同様に、自然環境の医者であるマイスターも、診断しただけでは、環境問題は解決しないのです。例えば、「この山林は、動植物種共に減少しており、以前より衰退している。」と診断しても、それに対して対策を立て、実行しなければ解決には至らないのです。もちろん、診断自体意味があり、正しい診断は基本中の基本ですが、マイスター各自がどのスタンスでどこまで係わるのかは、診断にあたって明確にしておく必要があります。

環境問題とは

さて、環境問題というのは、どんなものをいうのでしょうか。「環境生態学入門」(紹介コーナー参照)によれば、次のようです。

区分	具体例	影響範囲	影響時間
地球環境問題	地球温暖化、オゾン層の破壊、海洋汚染、野生生物種の減少、有害廃棄物の越境移動、酸性雨、砂漠化、熱帯林の減少	地球全体	遠い未来にかけて
自然環境問題	自然生態系の破壊、生物多様性の減少、種の絶滅、外来種など	地域	現在から近未来
生活環境問題	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下および悪臭など	生活の場	現在
化学物質問題	ダイオキシン、アスベスト、環境ホルモンなど	生活の場から地球全体に及ぶ	現在から遠い未来
廃棄物問題	産業廃棄物、一般廃棄物など	生活の場から地域	現在から近未来

もくじ

- 1面 診断するということ・その2
- 2面 マイスターニュース・出前講座
- 3面 マイスター活動状況・本の紹介
- 4~5面 メール討論・情報提供
- 6~7面 メール討論3つのテーマ
- 8面 お知らせ

どの問題ひとつ取っても重くそして、専門知識を有するものばかりです。マイスター各位は、自らの得意分野をさらに研鑽し、立ち位置を明確にしての対応が求められています。そして、診断にあたっては、「森を見て、木も見る」広い視野と見識を持つことが求められているといえそうです(編集部)。

● マイスターニュース ・県出前講座開催・大洞マイスター

大洞マイスターのご尽力により、こだまネット主催による長野県出前講座が開催されました。その概要をお知らせいたします。参加出来なかった皆様もその活気ある雰囲気を汲み取ってください。なお、これに先立ち、3月10日には、信州大学でミニシンポジウムが開かれ、ここでも大洞マイスターが講演されました。

長野県出前講座(自然環境公開講座)

- ◆ 主催:こだまネット(信州大学・自然環境診断マイスター・第2コース)
- ◆ 日時:2009年3月21日・9:30~14:30
- ◆ 場所:長野市吉田東公民館
- ◆ 参加者:佐藤先生・マイスター12名(第1.3コース各1名含む)・一般受講者19名

1.9:30-11:00 「長野県における地球温暖化の実態」

講師:県環境保全研究所・浜田 崇

- ・年平均気温の昇温率・シラカシの自生地の上昇
- ・積雪深の変化・バイオマスの利用など

2.11:00-12:00 「自然エネルギーの利用」

講師:大洞 盛胤マイスター

- ・森林の二酸化炭素吸収の仕組み
- ・太陽光電池の特製
- ・きのこ廃培地よりのバイオエタノール化など

12:45-13:00 西川マイスター・オカリナ演奏

曲目:岬めぐり、揚げば尊し、旅立ちの日に、アロハオエ

・心にしみる素敵な演奏でした。

3.13:10-14:10 「長野県の森林づくりの取り組みと

森林のCO2吸収について」

講師:長野地方事務所・林務課・中宿 恵司

- ・長野県の森林・林業の現状と課題
- ・森林づくりの取り組み状況
- ・県産材利用拡大への取り組み
- ・長野県森林CO2吸収・評価・認証制度
- ・森林づくりの事例等



大洞講師



浜田講師



中宿講師



西川マイスター:オカリナ演奏



● マイスター活動状況

マイスターが、いろいろな活動をしています。そんな活動状況をまとめてみました。自主的なグループ活動、既存団体への個人参加など多彩です。

1. グループ活動

- ◆ 自然観察グループ: やまびこ公園自然観察会など

(E.S.)・参加マイスター: (S)・発起人: 宮下 ・参加者: 中野、奥原、池田、西川、第一コース: 宮澤、五味、佐藤

- ◆ お手軽フィールドワークグループ: 「三角島」自然環境診断など

・参加マイスター: 橋住、西川、山本



- ◆ 第一コース : アレチウリ対策

2. 自治体活動などへの個人参加

- ◆ 大洞マイスター: 長野市温暖化対策計画策定作業部会委員、長野県出前講座への参加など

- ◆ 三浦マイスター: 仰山塾 in 天龍代表、長野県希少野生動物保護監視員、長野県地球温暖化防止活動推進員、長野県環境保全推進員など

- ◆ 竹脇マイスター: 木曽町環境協議会委員、木曽町環境基本条例策定委員など

- ◆ 池田 : 御代田町 町の景観を考える会への参加(少しずつマイスターを売込み中です)

上記以外の方で活動されている方もおられると思いますが、編集部で把握しておりません。

ご連絡をお待ちしております。今後の活動のネットワークづくりに役立てられればと思います。

● 本の紹介

- ◇ 環境生態学入門: 青山芳之; オーム社; 2009.4; ¥2,800+税

・環境問題全般、生態系、多様性についてなどを体系的に解説した入門書

- ◇ 生物多様性キーワード事典: 生物多様性政策研究会編; 中央法規出版; 2006.9 第5刷; ¥1,800+税

・生物多様性に関するキーワードの概略を解説。机に置くと便利。

- ◇ インタープリテーション入門: キャサリン・レニ工他2名・食野雅子他1名訳; 小学館; 2008.3 第9刷; ¥1,550+税

・自然解説の入門書・観察グループがテキストにしている技術ハンドブック

おまけ: イラスト図解・地球共生: 月尾嘉男編; 講談社; 2006.3; ¥1,500+税

・三浦マイスター参加の仰山塾塾長月尾先生編集の子ども楽しみながら学べる一冊。

(注: この本は、池田の手元にありません。)

注)「チェンジング・ブルー」は、三浦マイスターが紹介済みなので割愛しますが、電磁波の事も出ています。

● メール討論と情報提供

2月3日は、特にメール討論が活発でした。討論と情報提供に分けて時系列で表にしてみました。ここから、何が見えてくるでしょうか。皆さんも思い出しつつ眺めてみてください。

● 2.1~3.25 メールによる討論テーマ

NO	着信 月日	検討テーマ	発議グループ 又は発議者	討議参加者	先生
1	2.2	浅間山小噴火一葉	池田	竹脇(2.2)	戸田先生(2.3) 寒冷化記事追加
2	3	噴火・寒冷化問題など	本山	三浦(2.3)	
3	2.5	安曇野市・三角島公園化	お手軽フィールド ワークグループ (橋住発信)	池田(2.5) 藤森(2.5)	東城先生(2.6) ・万水川調査中 ・動物奇想天外の件
4	2.7	寒冷化への反論	大洞		
5	7	我が家の温暖化防止策			佐藤先生
6		IPCC 赤祖父教授の話	藤森		
7	2.12	三角島・今後の活動方針	橋住	藤森(2.13)	
8	2.15	寒冷化への反論その2	大洞		
9	22	ルーリン彗星	三浦		
10	27	電磁波問題	竹脇	宮下(2.27) 竹重(2.27) 佐藤仁(2.27) 藤森(3.1)	島野先生(2.27)
11	3.1	あれやこれや(特に電磁波)・2通 Y染色体	三浦	宮下(3.1) 三浦(3.2/返礼)	東城先生(3.1) 石田先生(3.2) ・オストラコーダ
12	2	山での電磁波・無線 LAN	瀧澤	藤森(3.3) ・オス・メス関連	
13	4	性染色体・テトラヒラメ1つの性など (東城先生・発信)		三浦(3.7) ・人類滅亡?	東城先生(3.4)
14	4	ルーリン彗星・写真	橋住		石田先生(3.6)
15	22	三角島問題中間報告	池田	竹脇(3.23) 橋住(3.25)	東城先生(3.26)

● 2.1~3.25 情報提供

NO	着信日時	情報	情報提供者	情報提供された先生
1	2.1	こだまネット公開講座 3.21の案内	宮下	
2	3	全学教育(1年生用)に「自然環境診断マイスターによる環境保全活動の実践」なる講義が採択	一色トシ	佐藤先生 ～副読本～
3	3	・2月8日:飯田市地球温暖化防止センター講演会 ・2月21日:長野県地球温暖化防止推進委員集合研修会 ・飯田市環境モデル都市選定記念イベント	三浦	
4	4	・2月15日:長野県環境研究所公開講座	大洞	
5	6	・2月8日:どうぶつ奇想天外		東城先生
6	14	・「第6回 身近な水環境の全国一斉調査」参加のお願い 全国水環境マップ実行委員会	三浦	
7	17	・マイスター認定証・カードサイズの発行		自然環境診断マイスター事務局
8	19	・3月10日ミニシンポジウム開催時間のお知らせ	宮下	
9	20	・5月2日:自然観察会の内容	宮下	
10	25	・環境研究会ミニシンポジウムポスターのお知らせ		佐藤先生
11	25	・2月23日、岡谷市及び、岡谷市教育委員会の後援決定(観察会)	宮下	
12	28	・地球寒冷化論評記事の紹介	竹脇	
13	3.1	・3月2日:東京・「森林セラピーシンポジウム」	竹脇	
14	11	・10日のお礼と21日の連絡	大洞・宮下	
15	12	・しん/リンクの今後	竹脇	
16	12	・21日公開講座・信毎に掲載	大洞	
17	13	・ザゼンソウ	三浦	
18	17	・今後の予定など	竹脇	

検討テーマ、情報提供共に多彩に活発におこなわれました。取り上げられたテーマを大別すると、①地球温暖化問題、②三角島環境問題、③電磁波問題、④染色体問題、⑤ルーリン彗星などでした。電磁波も、高圧線など人為的に放出(放射?)された場合でも、残留農薬(環境ホルモン)などと同様に生物に悪影響を与えるものにとらえれば、自然環境診断の範疇に入るといえるでしょう。電磁波そのものは、太陽からのもの、地球の磁場の関係など、もともと自然界に存在しているものですから、特別な専門知識が必要ですが、学ぶテーマが多いですが、三角島ややまびこ公園観察会のような具体的活動もチラホラ芽びきはじめており、楽しみです。

また、イベントなど貴重な情報を提供してくださっている各マイスターの皆様そして先生方、ありがとうございます。これこそ、ネットワークのありがたさですね。この表は、十分に皆様のメールを拾いきれていませんが、大筋の傾向を把握するためとお許し願います。(編集部)

● メール討論の発信源となった3つのテーマ

前出のメールのなかで、話題が広がる源となった、竹脇、三浦、橋住各マイスターのメールを紹介しましょう。どんな内容だったでしょう。(源となった中心部分のみ掲載させて頂きました。)



その1.電磁波問題・竹脇マイスター

～前段階～

さて皆さま、わたくし最近ちょっとその対応に困っていることがあり、皆さまにご相談いたしたくメールを差し上げました。

と言いますのも、表題の“電磁波問題”についてです。

現在木曾町で準備中の「環境協議会」のメンバーの中に、(私もメンバーの一人です。)電磁波問題に熱心な方がいらっしゃり、最近、私もいろいろ相談を持ちかけられているのですが、なかなか的を得たお答えができません。

“その手”の文献を少し読んでみたのですが、いろいろと恐ろしいことが書いてあり、頭痛、めまい、動悸、自律神経失調症から始まって、白血病、アルツハイマー、脳腫瘍まで、その影響は多岐に渡るとのこと。日常の使用に際しては“注意が必要”とされる生活関連用品は、ヘアードライヤー、電気シェーバー、電磁調理器、電子レンジ、電気ゴタツ、ホットカーペット、テレビ、蛍光灯、果ては自動車まで、現代の日常生活に関連の深いものが目白押しです。

(宮下さん、その頭のお手入れは何をお使いですか？ 電気バリカンだとするとその方に言わせれば脳腫瘍一直線でっせ！ ひょっとしてピップエレキバンなんかもお使いだったりして。) その中でも最近特に槍玉に挙げられているのが携帯電話です。

添付資料にもあるように、木曾町三岳(旧三岳村)に07年に設置されたドコモの中継基地が、この1月22日に使用中止になったとのこと、これは、先の方を中心とした住民の運動が実った結果だとのこと。

昨年私も関わった、「木曾町環境基本条例」策定に当たっては、それに電磁波について盛り込むように、かなり意見されました。結局、委員の同意が得られずこの件は見送られましたが、今後は、現在策定が進められている「環境基本計画」と「環境保全のふるさと宣言」に盛り込むようにと熱心に主張されておられます。

確かに電磁波は、私のような素人が考えても体に何がしかの影

響があることは想像できますし、実際無関心で居るわけではないのですが、どのようなスタンスでその問題と向き合うかについて困るところです。最近では北里研究所病院・臨床環境医学センターのように、電磁波過敏症についての研究プロジェクトをスタートさせたところもあるようです。(ここは日本で初めて化学物質過敏症の診療・治療施設を設置したところとして有名です。)

しかし、いかんせん私自身がこれだけ携帯電話を利用し、車なしの生活など考えられない中で、電磁波問題を論じても説得力は全くなく、またこれまでのところ、自分自身では電磁波の影響を全く体感できていないものですから、どうもその“害”とやらもよく理解できません。とりあえず、せいぜい署名運動に協力するくらいが関の山と言ったところです。ただかつての公害問題がそうであったように、健康面において疑わしいと思われていたものの、対策が遅れて甚大な被害を招いた例もありますし、“予防原則”の名の下にその対策を講ずるべきなのは、という意見にも反論できずにいます。

以前、島野先生が、前のお勤め先で電磁波問題に取り組みされたというお話を伺いましたが、どういう内容でしたっけ？ なんとなく覚えているのですが、確か飲み会の席上のお話だったこともあり、うる覚えです。あれはおそらく送電線の関係だったのでしょうか。送電線と携帯電話では同列に論じることは出来ないかとも思いますが、そのあたりいかがなものでしょうか。

ここまで書いたところで果たして“電磁波問題”とは環境問題というべきなのだろうかという疑問が湧いてきました。たしかに“自然環境”という側面から見ると無関係のようではありますが、我々を取り巻く“生活環境”には大いに関連していますし、悩ましいところですよ。果たして我々のような立場の人間(自然環境診断マイスター)が関わるべき問題なのかどうかも含め、皆さまのご意見をお聞かせいただければと思います。(2.27)

～ここから後段階～

(竹脇) 電磁波は、私のような素人が考えても体に何がしかの影

2009.4

M-M-ENE

こだまネット4号(第7面)

● その3.三角島公園化問題・橋住マイスター

～1行略～

久しぶりの書き込みです。20世紀少年 橋住です。

今回は、昨年11月に安曇野市在住の3人(西川・山本・橋住)で、新聞記事に掲載されていた場所の自然環境を観に行ってきました。私有地でもあるため、本格的な環境調査というわけにもいきませんのでぶらぶらと川の堤防を歩きながら、改めてどういう場所かを確認してきました。そこが、里地であるため、人と自然環境がどのように共生すればよいのかという観点からの報告です。だからどうなのか とい

現場を公園にしようとする団体に、具体的な提案をするほど環境調査ができるわけでもなく、変な話、私有地なのでそこに店舗を作るといわれても、反対できるわけでもなく。まあ、安曇野市の住民が普段、釣りや散歩なんかをしている場所だからちょっと 気になって…観にいった ということです。大王わさび農場へ来ることがありましたら万水川側の駐車場に車を停めて三角島をみてください。(2.5)

～ここから後段・添付ファイル略～

● その2.XY染色体問題・三浦マイスター

～イベント情報・活動等前段階略～

■ XとYのミステリー

NHK-BSハイビジョンで、2月19日放映されたものを、最近録画で観ました。観られた方も多いと思いますが話題があるので紹介します。衝撃的な事実の話題で、大騒ぎになっても不思議でないと思いますが…。ことによると地球温暖化問題より深刻かも…Y染色体のミステリーと言うタイトルで“人類滅亡の危機に迫る”でした。

前段階で、男(♂)と女(♀)の恋のミステリーを解説しています。恋の中核は、脳の腹側被蓋野(この漢字を打つのが大変でした)でドーパミンが大量に発生されることによる。これを報酬系のシステムと言う。このシステムは長続きしないそうです。18ヶ月から3年で崩れ、“恋”の後は“愛着”のステージに移るとか。(哲様、納得ですか?)人間の進化の過程で、男脳と女脳が出来たそうです。(哲様、女性が理解できないのも仕方ありませんネ)さっぱり分かりません。この解説は藤森脳ドクター(今は卵?)に御願します。それにしても藤森マイスターは凄いことを学んでいますね。

さて、本題。人間の男女の別は、女性の一对のX染色体と、男性のXとYの染色体の対の組み合わせによる。これは良く判っている話です。ここでX染色体は男女で3個あるが、Y染色体は1個なのでエラー(劣化)したとき修復が出来ず16600万年前に誕生してから、衰退の一途をたどり、早ければ来週、遅くとも500万年後には消滅するそうです。X染色体はエラーが起ってもスペアがあるので修復できるし劣

化しない。其の証拠に、X染色体の遺伝子は1098個あるが、Y染色体の遺伝子は78個に過ぎないそうです。(誕生時には同じ量の遺伝子があったそうです)Y染色体は父から息子に其のままコピーされるだけで、何世代経ても他の遺伝子と交わることがなく劣化の一途をたどっている。一人の男のY染色体が何10万人の男にコピーされていることもあるそうです。モンゴルの英雄チンギスハンは1600万人にコピーされているとか。さすが青き狼。(残念ながら私は息子1人なので後は息子の頑張り?による)

一般に、生物の生命力は遅く、巧みで、♂は不要かもしれませぬ。イギリスのテスター動物園のコモドオオカゲは雌だけで子孫を残したそうです。鳥の仲間も魚の仲間もこの仕組み(♀だけで子孫を残す)を持っているそうです。イソギンチャクに生息するクマノミは適当に性転換します。雌雄同体の生物も多くいます。(この辺は東城先生のフィールド?)幸か不幸か、哺乳類はY染色体が胎盤を作るとか、とすると男(♂)がいなくてもどうしても子孫が残らなく絶滅することになります。人類滅亡の危機です。

しかし、Y染色体がなくなった「トゲネズミ」は染色体の都合良い突然変異によって子孫を残しているそうですが…。人間も染色体の突然変異を待ちますか?クローン人間などのテクノロジーによって生き残りますか?

世の中女性だけになったら…。大分殺風景になりますネ。(哲様どうします?)女性諸君はもっと男性を優しくいたわり、大切にしないと大変なことになりますヨ。(3.1)

お知らせ

今後のマイスターの行事予定は次のとおり、です。出来るだけ参加しましょう。

先ず、結果の報告です。

- ▶ 2009年 3月10日:自然環境ミニシンポジウム:於・信大松本校舎;講師・大洞マイスター、松澤マイスター
- ▶ 3月14日:第三コース修了式;小岩井、藤森両マイスター誕生
- ▶ 3月21日:県出前講座:於・長野市吉田東公民館;講師・大洞マイスター他

今後の行事予定

- ◆ 2009年 5月2日: 9:00 やまびこ公園自然観察会;自然観察グループ主催
- ◆ 5月23~24日:しんリンク勉強会(信州新町)「化石講座(メインパネラー・石田先生)」
- ◆ 8月8日: こだまネット総会(開田高原)
- ◆ 8月下旬~9月: しんリンク主催・環境シンポジウム「霧が峰に学ぶ」
- ◆ 5月9日:第四コース開講



ナツツバキの脱皮?です。
木も、ひと皮むけて成長するようです。

編集後記

3月終わりになって、大陸からの寒気が居座り、サクラの開花が足踏みするほど寒い日が続きました。その前が暖かっただけに、体調管理が大変でした。にもかかわらず、マイスターの活動は旺盛で、とりわけメール学習・討論・情報交換がいつもの月よりかなり多く、第一コースの方まで参加され、編集に迷うようなうれしい悲鳴を上げるほどでした。その内容は、4~5面に表でまとめさせていただいたとおりです。話がどんどん広がり、思わぬ方向に展開するのもメールならではのですね。

さて、ようやく春です。これが届くころにはサクラも咲いていることでしょう。(飯田は散っているかもしれませんが。)3月は、大洞マイスター講師の出前講座が成功のうちに終了しました。ご協力の皆様にも感謝です。皆様はこれに続く次なる活動に向けて、始動されていることでしょう。多彩な活動が楽しみです。

発行:北佐久郡御代田町御代田 2383-10 TEL-0267-32-9350

編集担当: 池田 正史